

北海道海洋生物科学研究会 ニュースレター



The Newsletter of the Research Group for Hokkaido Marine Biological Sciences

No. 15-17 (2008年6月発行) 発行：北海道海洋生物科学研究会

1. 代表幹事からの挨拶	佐々木 達 (代表幹事)
2. 昨年度シンポジウムについて	幹事会
3. 今年度シンポジウムの予定 (重要)	幹事会
4. 他学会のお知らせ (第3回化学生態学研究会)	沖野 龍文 (北大院・地球環境科学研究院)
5. G8 サミット関連行事等について	幹事会
6. 事務局だより	

編集担当幹事からのお詫び

1年近くニュースレターの発行が滞り、皆様に多大なご迷惑をおかけしました。代表幹事には正月早々に原稿をいただいております。重ねてお詫び申し上げます。

1. 代表幹事からの挨拶

北海道海洋生物科学研究会代表幹事
佐々木 達

アカシアの香りに包まれ、北海道は最も暮らしやすい時期を迎えています。会員の皆様はお変わりなくお過ごしのことと思います。

昨年は、北海道大学水産学部の創期100周年ならびに北海道大学忍路臨海実験所の開設100周年にあたり、北海道の海洋生物を扱うものにとって記念すべき年にあたり、皆様のご協力を頂き、例年とは趣の異なるシンポジウム「海産無脊椎動物の多様性」を開催することが出来ました。

100年前、未知の可能性を秘めた北海道、その中で最も魅力に満ちた海洋に対する関心は非常に大きいものであったと想像されます。北海道は多様な海の生物に恵まれ、これまでに先人の努力により全国の漁獲量の1/4を占めるまで漁業が発展し、海洋生物の分類、生態、機能などについて多くの研究成果が発表され、海洋生物科学は社会に貢献してきました。

この100年間の科学技術の発展、人々の生活レベルの向上により多くの恩恵がもたらされた反面、失ったものも少なくはありません。現在、新たに生物の多様性、環境問題、天然物化学など医理用面で海洋生物への関心はより一層大きなものとなっています。

昨今、経済は大きく衰退し、研究等を取り巻く環境は劣悪になっていますが、研究者の海洋生物に対する情熱は100年前に勝るものがあると思います。

研究会では、北海道における海洋生物科学の新たな100年に向け、ニュースレター、シンポジウムなどを通じ、会員皆様の情報交換の場として活用できるよう努力したいと考えています。

今年も、よろしくお願い致します。

2. 昨年度シンポジウムについて

昨年度は下記のようにシンポジウムが行われました。多数の御参加をお礼申し上げます。

記

1. 日時 平成19年11月9日(金) 午後
2. 場所 北海道大学学術交流会館(札幌市北区北8条西5丁目)
3. シンポジウム 「海産無脊椎動物の多様性」(敬称略)
 1. 馬渡 駿介(北大・理/北大・総合博物館館長)
「多様性ってなに？」
 2. 宇田川 徹(北海道区水産研究所 海区水産業研究部 海区産業研究室)
「北海道の大型(センチメートル級)ワラジムシ(等脚)目甲殻類」
 3. 酒井 勇一(道栽培水試)
「北海道におけるナマコの生態と種苗生産の問題点」
 4. 東典子・阿部周一(北大院・水)
「カニ類の分子遺伝マーカーの開発と遺伝的変異解析」
 5. 町口裕二(北海道区水産研究所)
「ベントス研究と水産業とのかかわり」



3. 今年度シンポジウムの予定(重要)

平成20年度の当研究会の活動として、10月~11月の金曜に函館市でシンポジウム及び総会を開催する予定です。予定の詳細は現在検討中ですので、次号でお知らせします。

4. 他学会のお知らせ（第3回化学生態学研究会）

沖野 龍文（北大院・地球環境科学研究院）

本研究会は水圏生物の化学生態学をテーマに、例年のように函館で開催されます。

共催 日本化学会・日本薬学会

会期 平成20年7月4日（金）午後
7月5日（土）午前

会場 湯の川プリンスホテル渚亭 函館市湯川町1-2-25

Tel: 0138-57-3911 HP: <http://nagisatei.info/>

（函館空港からタクシーで7分、函館駅からタクシーで15分）

参加費 15,000円（宿泊・懇親会代として）

<プログラム>（予定）

柴田敏行先生（三重大）褐藻アラメ・クロメのフェノール性分泌物

西村欣也先生（北大水）止水生態系における捕食者—被食者の攻防

齊藤玉緒先生（北大理）土壌微生物・細胞性粘菌のポリケタイドとその合成酵素

藤田雅紀先生（熊本大）線虫 *C. elegans* の耐性幼虫フェロモン：モデル生物の化学生態学

山下まり先生（東北大農）テトロドトキシンの類縁体に関する研究

酒井隆一先生（北大水）海綿に含まれる小分子化合物の起源と機能を追って

福沢世傑先生（東大理）ノルゾアンタミンを介したスナギンチャクとカビの共生関係とその役割

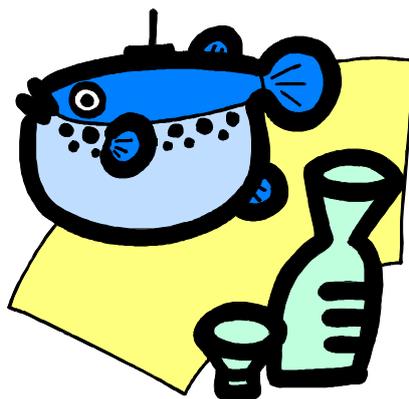
小谷真也先生（静岡大）放線菌の気菌糸誘導物質について

（夕食前に約1時間ポスターセッションを開催します。）

申込締切 6月10日（火）（締切を過ぎていますが、参加希望の方は沖野まで）

世話人代表・問い合わせ先 北海道大学大学院地球環境科学研究院 沖野龍文

Tel&Fax 011-706-4519 e-mail: okino@ees.hokudai.ac.jp



5. G8 サミット関連行事等について

本年は洞爺湖で G8 サミットが開催され、それにあわせて様々な行事が企画されています。ここにあげているのはほんの一部です。

【北海道及び市町村の企画等】

1) 北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展 2008

会期：平成 20 年 6 月 19 日（木）～21 日（土）3 日間

会場：札幌ドーム（札幌市豊平区羊ヶ丘 1 番地）

開催主旨：

1. 環境産業の最先端技術・最新情報を発信します

エコイノベーション、エコテクノロジー、エコプロダクツ、エコサービス等の最先端技術・最新情報や動向の紹介と、それらを使った新しいエコライフスタイルを提案します。

2. 環境ビジネスの新たな展開のために、マッチング機会を創出します。

環境ビジネスにおける製品の販売促進、新技術・製品・材料の紹介など、ビジネスパートナーとのマッチングの機会を創出し、環境産業の発展に寄与します。

3. 次世代のために、環境教育に関する魅力あふれる体験の機会をつくります。

未来を担う子どもたちにとって最先端技術に直接触れることができるチャンス、環境問題を伝える教材、自分たちができることを考えるきっかけとして、また、企業などが環境問題に取り組んでいることを体感してもらう最適な場として活用します。

4. 市民の環境に対する意識や取り組みをさらに促進していきます。

北海道が誇るべき自然環境を大切に維持し、さらによりよい環境にするために、市民が主体的に参加し、地域を動かしていく好機にします。

5. 「環境センサーアイランド北海道」を世界に向けて。

北海道には世界に誇るべき自然環境があると同時に地球温暖化の観測に有効な指標（インディケーター）を複数保有しています。この資産を最大限に活用して、世界に貢献していきます。

2) 海から森の連環を考えるシンポジウム

日時：平成 20 年 7 月 4 日（金）13：00～17：00

場所：紋別市市民会館小ホール

主催：紋別市役所産業部農政林務課

概要：森から海の連環を考えるシンポジウム みどりの循環森林認証で地域おこし協議会（紋別市 他） 地材地消を目指す紋別市を中心とする「網走西部流域」は、流域森林面積の 77% を占める 29 万 3 千ヘクタールに及ぶ国内最大の森林認証エリアを有し、その豊かな森林資源を活用した地域産業を活性化させるべく、京都大学が提唱する「森里海連環学」と連携したシンポジウムを開催する。

問合せ：0158-24-2111 <http://www.mombetsu.jp>

【大学関連】

(北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2008)

1) 地球温暖化による劇変を解明する

日時：2008年6月24日(火) 9:30-17:30

場所：北海道大学学術交流会館

主催者：「持続可能な開発」国際戦略本部，地球環境科学研究院，低温科学研究所

概要：IPCC第4次報告書に含まれる不確実性を乗り越え、より正確な将来の気温や海面上昇率、海水退行を予測すべく、若手とベテランの研究者が、議論を通じて地球温暖化の解明を試みます。

URL<http://www.ees.hokudai.ac.jp/coe21/dc2008/index.htm>

問い合わせ先 TEL: 011-706-2093, office2@sustain.hokudai.ac.jp

2) 生態系保全のための環境モニタリング

日時：2008年6月25日(水) 12:00-17:30

会場：北海道大学学術交流会館

主催者：地球環境科学研究院

概要：近年、全世界的な異常気象が地球の生態系に異変をもたらしています。地球の異変の現状とその仕組みについて理解を深めるため、南極、熱帯、温帯での大気や気象・水文などについて、最新の観測研究成果が報告されます。

URL<http://www.ees.hokudai.ac.jp/coe21/dc2008/index.htm>

問い合わせ先 TEL: 011-706-2200, iwakuma@ees.hokudai.ac.jp

3) 海洋生態系と水産食資源のサステナビリティ科学—明日の水産食資源と海洋生態系を守るために—

日時：2008年6月28日(土) 9:00-17:00

会場：北海道大学学術交流会館

主催者：水産科学研究院

概要：増え続ける世界人口を養うためには、陸だけでなく海からも食料を得ることが重要です。未来の子どもも水産資源を充分利用できるよう、海洋の生態系を意識した新しい水産資源管理方法を提案します。

URL<http://sw2008.jp/fish>

問い合わせ先 TEL: 0138-40-5605, FAX: 0138-40-5605

4) 国際シンポジウム センチネル・アース —地球環境の見張り人—

日時：2008年7月5日(土)～7日(月) 9:00-17:00

会場：北海道大学学術交流会館，同クラーク会館

主催者：アラスカ大学，パラカラヤ大学，JAXA，RESTEC

共催：情報科学研究科，朝日新聞，北海道，JAL，JR北海道

後援：HBC

概要：衛星観測とフィールド観測のデータを使い全地球規模の環境予測を行うと共に、予測結果に応じて素早く北極から熱帯地域までの環境をコントロールする「地球環境の見張り人」の方策を探ります。

URL<http://sw2008.jp/SEarth>

問い合わせ先 TEL: 011-706-6784, hhaya@eng.hokudai.ac.jp

(室蘭工業大学)

5) 水環境に関する国際セミナー

日時：平成20年6月27日(金) 13:00-17:00

場所：(独)土木研究所寒地土木研究所(札幌市)

主催：室蘭工業大学, (独)土木研究所寒地土木研究所, (独)科学技術振興機構(JST/CREST)

後援：国際協力機構(JICA) 札幌国際センター

協賛：(財)北海道河川防災研究センター, ユニセフ(UNICEF)北海道支部, 四万十・流域圏学会

趣旨：G8 北海道洞爺湖サミットでは、環境重視の日本を世界にアピールするために、地球環境(温暖化)変化の影響を受ける脆弱性の高い問題地域(アフリカとアジア)に着目し、あわせて第4回アフリカ会議(TICAD-IV)も東京で開催されます。

JICA 札幌センター主管で室蘭工業大学が実施している平成20年度の「乾燥地における統合的水資源・環境管理コース」には、ジンバブエ、ルワンダ、ニジェール、ヨルダン、イラク、インド、モンゴル、中国から政府を代表する水と環境分野の専門家が参加を予定しています。また、これまで実施された JICA 研修では国連(UNU/UNESCO)および JICA/JST との協調の枠組みで平成18年、平成19年と連続して国際ワークショップとセミナーを実施し、「地下水と人間の安全保障および湿地帯・沖積氾濫原平野の保全・再生」について議論してきました。以上を踏まえ、これまでの総括と今後の展望に関する討議を目的とした標記セミナーを企画しました。

この中では、最近、世界で急速に関心が高まってきている地球規模環境問題に深く係わる「水と環境」、とくに北海道に広く分布する沖積氾濫原・湿地帯の生態系と地下水の保全と再生に関する現状および問題と課題を開発・管理のパラダイムから政策シナリオに展開させて討議し、北海道水・環境アジェンダ 2008 を提起します。また、標記セミナーは G8 北海道洞爺湖サミットと連動して開催し、水や環境問題への関心を高めるねらいがあります。

本セミナーは水や環境問題に関心のある一般市民(研究、教育、NGO/NPO、行政、実務関係を含む)にもその現状や課題を知っていただくと共に意見交換の場ともなることが目的です。なお、セミナーは英語で行われますが、関係者を含めてお誘い合わせのうえ、ふるってご参加下いただければ幸いです。

お問い合わせ先：(独)土木研究所寒地土木研究所水環境保全チーム、山下彰司

(Tel. 011-841-5235, E-mail: mizuseminar@ceri.go.jp)



6. 事務局だより

1) 年会費納入のお願い

平成20年度年会費を同封の払込票で払い込んでください。一般会員1,000円、学生会員500円です。払込票には支払い年度（未納年度を含む）を記入しましたが、今年度分既納者には同封していません。

口座番号 02700-1-93161 加入者名 北海道海洋生物科学研究会

2) 会員の動向

下記の方がご入会になり、会員数が38名となりました。

東京農業大学生物産学学部 山家 秀信氏

北海道大学大学院環境科学院 松浦 裕志氏

札幌市 本山恵美子氏

下記の方が異動されました。

川井唯史氏 北海道立稚内水産試験場

内田卓志氏 水産総合研究センター 北海道区水産研究所

住所・所属先の変更がございましたら、事務局までお知らせ下さい。

3) 会計報告

遅くなりましたが、平成18年度会計報告は以下の通りです。

平成18年度収入

会費	22,500円
繰り越し	99,929円
計	122,429円

平成18年度支出

事務用品	13,961円	(主にニュースレター印刷費・封筒代)
郵送料	8,930円	
振替手数料	1,680円	
補助	35,630円	(研究集会)
計	60,201円	

19年度へ繰越 62,228円

・本会に関する問い合わせ・入会希望は、事務局（沖野 龍文）TEL011-706-4519、電子メール okino@ees.hokudai.ac.jp

・ニュースレターへの情報提供・投稿などに関するお問い合わせは、ニュースレター編集担当（栗原 秀幸）TEL0138-40-5561、電子メール kuri@fish.hokudai.ac.jp までお願いします。

編集後記

1年近く発行していなかったもので、皆様に忘れられてはいないかと心配です。年々仕事がこなせなくなり、皆様にご迷惑をおかけしました。何とかニュースレター発行スケジュールを戻したいと思っておりますが、叱咤していただければ幸いです。

(栗)